

- 特定の種類の抗菌薬(抗生物質ともいう)などが効かなくなる**薬剤耐性(AMR:Anti Microbial Resistance)**は世界的な問題
- 2050年にはがんによる死者を上回る予測もある。発生原因は抗菌薬の不適切な使用(過剰処方や患者の抗菌薬使用中断など)
- AMR対策を進めるため、村山保健所では令和5年6月に山形市保健所、衛生研究所と協力し、医療機関・医師会等と「**村山AMR等対策ネットワーク**」を設置
- 令和6年度は、新たに幹事会を設けるとともに、中核となる4病院における抗菌薬使用状況及びAMR発生状況について調査を実施。さらにネットワークが機能するよう取組みを進め、県民の安心・安全の確保につなげていく

1 「村山AMR等対策ネットワーク」の設置

- 医療関係者の共通認識である**AMR**対策を進めるため、村山地域の医療機関や地区医師会等が連携する「**村山AMR等対策ネットワーク**」をR5年6月に設置(事務局:村山保健所)

<村山AMR等ネットワーク>



【R5年度の実施(研修等)】

- R5.6月 薬剤耐性(AMR)感染症等ネットワークにみる保健所の在り方について
- R6.1月 AMR対策における地域ネットワークの重要性について

2 令和6年度の実施

- R6.6月 第1回幹事会
山形市保健所副所長を中心に、村山地域の感染対策の中核となる4病院(感染対策向上加算1※1)、衛生研究所、山形市保健所、村山保健所による幹事会を設置。AMRに関する村山地域の状況把握方法について検討
→加算1施設を対象とした病院向け調査(抗菌薬使用状況、AMR発生状況)を実施

※1 感染対策向上加算1：専任の常勤医師や看護師等からなる感染制御チームが設置され、保健所や地域の医師会と連携し、加算2、3の医療機関と合同でカンファレンス等を実施する病院
- R6.7月 村山AMR等対策ネットワーク会議
病院向け調査結果を情報共有し、地域の状況把握方法を決定
→調査結果を県民向けに情報提供(山形市保健所、村山保健所ホームページに掲載)
→今後年1回の調査を継続実施

【今後の活動計画】

- ① 管内の医療機関に周知を図り、**病院向け調査の対象を拡大**
- ② **AMRアウトブレイク(院内集団発生)**を経験した病院職員による研修会を開催
- ③ 病院向け調査結果を共有の上、今後の活動を協議(年4回程度リアルタイムで地域の動向をみていく)